



本会は、鎌倉中央公園の貴重な谷戸景観と多彩な動植物を保全するため、市民活動を実践していたメンバーが中心となり、行政との協働で立ち上げたものです。

…会員随時募集中！…

〒247-0066 鎌倉市山崎 1667 鎌倉中央公園管理事務所内 TEL/FAX：0467-47-1164 木曜を除く10時～16時
Web URL：<http://www1.ocn.ne.jp/~ya-yato/> E メールアドレス：ya-yato@arrow.ocn.ne.jp

今年の稲刈り3日間は晴天に恵まれました。大豆を目指して育てている「たのくろ豆」を、慰労として枝豆で賞味するのが当会の伝統です。昨年、本来の名称どおり、田の畔(たのくろ)に植えて見事に成功しました。体験学習で米作りをしている小段谷戸での、昔の谷戸の復活です(右写真参照)。晩秋は、豆、そば、ごまなど次々と収穫される農作物の選別加工作業に追われます。立ち寄って手を染めてみてください。



↑ 10/12 稲刈り後のまるき作業

10/10 稲刈り 小段谷戸の畔には“たのくろ豆”が見事! ↑

もくじ

☆各班からのお知らせ
→2・3p ☆自然だより→4p ☆谷戸往来→5p ☆体験学習→6・7p
☆11～1月の日程表(裏表紙)

鎌倉中央公園フェスティバル第2弾(協働開催)

秋の谷戸まつり開催

11/24(日) 10時～14時(荒天中止) 野外生活体験広場
炊き出し(谷戸鍋・餅・ご飯) *お椀・箸の持参を!
→頒布券配布開始 11時 引換え 11時半
展示・紙芝居上演・頒布(新米など)・体験コーナー

各班からのお知らせ



田んぼ班 ★11/2(土)、3(日)脱穀 ★4(月・祝、10日) 粃干し・藁切り ★17(日) 粃摺り



10/13 稲刈り

5枚の田んぼで、水がない状態で稲刈りをしました。一般的にはこれが普通なのですが、ここでは20年くらい前に1度あったくらいです。こんな異常気象もあってか、今年の収穫は少な目でしたが、それでも新米を手取るのは楽しみです。残るは脱穀、粃干し作業。頑張りましょう。そのあとはまた気を取り直して、畔・水口・ため池の補修や堆肥作りを一緒に始めましょう。



畑班

★11/3(日)小麦の種蒔き・たまねぎの移植★10(日)小豆・落花生の収穫・さつまいもの洞入れ ★17(日)たのくろ豆の収穫・吊るし干し ★さといも掘り・種芋の洞入れ



10/20 さつまいもの収穫

例年になく残暑の厳しさで、大根の種を蒔いても発芽したばかりの芽が虫に食べられ、なかなか育ちません。それでも残った株は、遅く成長しつつあります。また、この暑さがよかったのか、さつまいもは大豊作でした。苗床の管理から大切に育ててきたことにご褒美をもらった気がします。

11月に入ると、小麦の種蒔きから始まり、たのくろ豆、さといもの収穫が続きます。台風による被害も最小限にとどめることができ、実りの秋を迎えられたことに感謝し、秋の谷戸まつりに美味しい谷戸鍋を提供したい！と思う今日この頃です。



雑木林管理班 ★11/10(日)、17(日)雑木林の除間伐



9月、10月は、農作業のかたわら雑木林の下草刈りを始めました。今月からは、雑木林作業のシーズンになります。台風の通過が多く、雨と風で倒れた木の処理も無理のない範囲で進めています。例年に比べ、スズメバチと出くわすことも多い年でした。安全第一で森の作業をやっていきます。



気を配って草刈りした結果、ツリガネニンジンとカラマツソウが咲きました。



農芸班

★11/29(金) たのくろ豆の殻出し・選別

澄み渡った秋空の下、小麦の製粉とともに、そばを石臼で挽きました。小麦は秋の谷戸まつりで頒布します。小段谷戸の田の畔にたのくろ豆が植えられ栽培していたのをご覧になりましたか？ 本田脇の畑に負けず劣らず、見事に実をつけ、昔の山崎の風景が蘇り、収穫を待つばかりです。

今年も美味しい味噌の仕込みができますようにと、たのくろ豆の殻出し作業の段階から期待が膨らみます。



10/11 そばの製粉



自然遊び班

10/6(日)「こども里山一日体験」では草地に絡むクズをツルごと除去し、その葉で染めました。輪ゴムで絞った部分が模様となり、白い布が黄色味を帯びた色に染め上がり、子どもも大人も染まった布に感激していました。

※9/15の活動でしたが、台風到来のため中止し、10/6に振り替えて行いました。

10/6
こども里山
一日体験
「草木染め」



10/27(日)「里山探検隊」ではさつまいもに傷をつけない掘り方を、畑班のおじさんに教わりながら、収穫を楽しみました。午後はドングリを拾いながら谷戸を歩き、拾ったドングリはポットに植えて、福島県南相馬市の防潮堤に植える苗木として谷戸で育ててゆきます。子どもたちの協力でたくさんのドングリが集まりました。



10/27
里山探検隊
「ドングリの
苗木観察」

★父と子の里山体験 (親子参加型・2歳～小学生まで、各回定員20組)

・11月3日(日)「雑木林で伐採・皮むき体験」・12月8日(日)「切って、割って、薪作り」

雑木林に入り、雑木林管理班のおじさんと一緒に、のこぎりを使って1本の木を倒します。年輪を数えてみたり、枝払いをしたり、木の皮をむいたり、いろいろな道具を使いながら山仕事の体験をします。薪を使って実際にかまどの火付けにも挑戦します。



生態系保全班

★11/6(水) カヤネズミ調査 ★30(土) 野鳥入門

★12/4(水) カエルの産卵場所の整備 ★12/22(日) 野鳥観察

クルマバッタ



バッタやコオロギの調査で、コバネイナゴやクルマバッタ、ショウリョウバッタモドキを観察しました。このバッタは谷戸で普通に見つけることができます。しかし、住宅地などの田んぼや土手がない環境では見かけません。少し前には身近にいた生きものたちですが、いつの間にか姿を消しつつあり

ます。また、稲刈り後の田んぼには赤浮草類がびっしりありました。

これも引き続き除去していきたいと思っています。



ヒカゲチョウの仲間?の幼虫



植物育成班

★11/18(月) 野草の種の観察

★12/25(水) 湿地の保全作業

暑い中、水路の手入れをした成果か、湿地にはツリフネソウがたくさん咲きました。また、クズやカナムグラの駆除にも勢を出しました。その場所一面にミゾソバが咲き乱れる景色を見ると来年も頑張ろうと思います。この秋からヒガンバナを復活させたいと計画しています。昔の谷戸のよう



ミゾソバ

に、秋には畔が真っ赤になるぐらい増えたらいいなと思います。今まで試みがないので、詳しい方がいたら、一緒に活動してください。



9/30 秋の野草を見る

谷戸の自然だより

～生態系から見た、雑木林の手入れの基本 その1～

前回までは、鎌倉の里山のさまざまな荒れ方を挙げました。雑木林が放棄されて50年以上がたち、昔では考えられなかった新しいタイプの林ができつつあります。現代の鎌倉の場合、都会人が住んでいる町の中の里山ですから、生態系や景観を守ることが求められています。本来の里山にはあり得なかった、田んぼの跡地の湿地や大木の多い林の保全をどうするかが課題になっています。

従来の中山保全の手法に加え、里山の「荒れ」を活用した現代的な里山の手入れの方法も考えていくべきでしょう。新しい時代の雑木林の手入れにあたって、生態系保全の立場から知っていただきたい事項をまとめてみます。

①木が大木に育つと

鎌倉の山は急斜面のうえ、土壌が浅いため、大木に育つと根が支えきれず、根ごとひっくり返る“座返り”という現象がおきることが地元の人によく知られています。ただ、特に倒れやすい木と、大木になっても倒れにくい木があるので、それらを見分けて、優先的に切るべき木と、残してもよい木を知っておくべきでしょう。

②倒れやすい木とは？

木の種類では、急斜面に植えられたスギ、枝が横に広がって頭でっかちな樹形に育つミズキ、カラスザンショウ、アカメガシワなどの樹種は特に倒れやすいです。コナラやヤマザクラも大きく育つと倒れやすいです。一方、ヒノキやケヤキ、ムクノキなどの樹種は、倒れにくいと言われていています。それを知ってか雑木林の中に、ケヤキの大木が残されているのも見かけます。また、木の種類を問わず斜めに傾いて育っている木は、いずれ倒れる危険があるので優先的に切るべきでしょう。

③雑木林の下草（アオキ、ササなど）刈り

生態系の観点では、森を明るくし、動植物の種類を増やすために必要な作業です。昔は山の手入れという意味で、役立つ木（ヤマザクラ、コナラなど）以外は切ってしまうという考え方だったようです。忘れてならないことは、大きな木（高木）を切らないまま、下草だけ刈っても、あまり光は入らないため効果が薄いということです。また、昔の里山のように地元の人以外は入らない静かな場所なら良いのですが、現代の鎌倉の様に不特定多数の人が出入りしている状況では、下草が目隠し（野鳥などの隠れ場所）として必要なため、ある程度残す工夫が必要です。低木や亜高木などもある程度残さなければなりません。幸い当会の雑木林の手入れでは、このような配慮がなされています。次号へ続く・・・

谷戸の裏方⑧ ～ はさ ～

またまた台風にやられてしまいました。

10/16 台風26号通過被害



週末に刈ったばかりの稲がかけられた「はさ」が、ぱったりと倒れたのです。どこから手を付けていいのか茫然としてしまうありさまでしたが、田んぼ班リーダーの声かけで数名が集まりなんとか立て直すことができました。自然相手の活動では、痛い目に会うことはこれまで幾度もありましたが、いつも会員の方々のあったかい協力のおかげで乗り越えています。

立て直したはさが脱穀まで耐えられますように。



市内保育園の保育士講座を開催

9/7(土)、毎年恒例になった保育士講座が、今年も7園8人の方の参加で実施され、子ども達がよく遊ぶ水路の草刈りをしました。【感想】★今回、私の考えが変わった気がします。虫たちが住みやすい自然にすることで子ども達が自然と触れ合う場所へと変化し、生き物と人間が共存することにもつながると学びました。(大船保育園 寺菌)★「自然の中で遊ぶ時は周りの様々なものを感じる能力、自発性が必要になる。それは自然の中の遊びでなければ身につかない」というお話が一番心に残りました。(深沢保育園 奥田)★私は虫が苦手



鎌の手入れも体験

ですが、1日自然に触れていると何だか虫にも慣れてきて、虫を見るのが楽しくなり、バッタが触れるようになりました。(材木座保育園 森)

NEW

もい・みずカフェ 水源環境を守る市民団体活動展

10/14(月)、助成を受けている神奈川県水源保全課主催にて、横浜そごう前広場で行われました。他団体との交流とともに、県民に活動をアピールする催しで、他の地域で活動をしている方、赤ちゃん連れの方、若いカップルなどいろ



んな方が関心をもってくださり、雑木林班リーダーが解説をしました。

赤ちゃん連れの方

市民の方が続々と…



深沢小ふれあい広場に協力

10/19(土)、地域を巻き込んでのPTA主催行事に今年も協力しました。さつまいもといもづの佃煮を650人分用意し、どちらもおかわりをする子が出るほどの人気でした。先生方にも協力いただき、『お米作り』の話もできました。



NEW 鎌倉女子大 杉本ゼミの学生訪問

8/29(木)、昨年当会が講師をした市内幼稚園教師分科会に出席された鎌倉女子大の杉本先生が、ゼミの学生と共に来訪されました。【感想】★今の子どもは自然の中で遊ぶ機会が少ないので、こういう場所は大切だと思う。★自然を守る大切さを学びました。実行するのは大変なことだと思いました。★保全活動はどんどん広がるといいと思いました。★子どもが自然の中で遊ぶ姿をみたり、生き物に会ったりして子どもの頃を思い出しました。★子ども達がどんなふうにいるのか活動に参加したい。